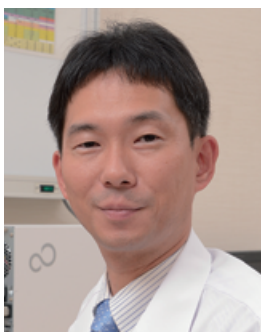


新設講座紹介

疫学研究「在米日系人医学調査」と寄附講座「糖尿病・生活習慣病予防医学講座」の紹介

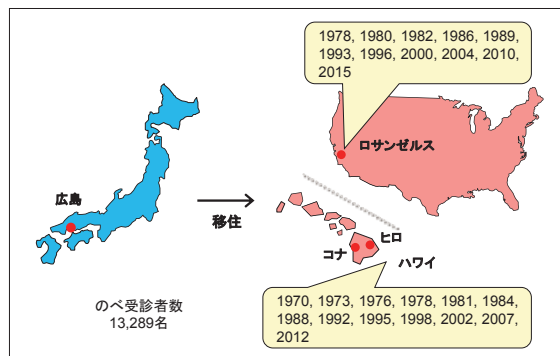
米田 真康

医歯薬保健学研究科 糖尿病・生活習慣病予防医学
寄附講座教授



医歯薬保健学研究科分子内科学（内科学第二）教室では、「在米日系人医学調査 the Hawaii-Los Angeles-Hiroshima Study」と称する、広島から米国に移住した日本人移民を対象とした疫学研究を、1970年に開始し、およそ50年に亘って続けてきました。遺伝素因は同一でありながら、生活習慣が異なる2つの日本人集団、すなわち、米国式の生活習慣で暮らすハワイやロサンゼルス在住の日系米人と、日本式の生活習慣で暮らす広島在住の日本人の調査成績を比較することにより、生活習慣の欧米化という環境因子の変化が日本人の肥満や糖尿病などの生活習慣病、動脈硬化性疾患などの疾病構造へ与える影響について報告してきました。

当寄附講座では、「在米日系人医学調査」の研究の推進・発展に特化し、糖尿病を主とした生活習慣病の発症および動脈硬化進展の機序や危険因子を明らかにすることにより、日本人の生活習慣病予防のための効果的な生活習慣の是正・介入策を提唱していきたいと考えています。



在米日系人医学調査は、1970年からハワイ、1978年からロサンゼルスで始まり、2015年までに計24回実施され、のべ受診者は13,000名を超えています。

「運動器超音波医学」共同研究講座の開設にあたり～運動器超音波に魅せられて～

中島 祐子

医歯薬保健学研究科 運動器超音波医学
共同研究講座准教授



この度、平成30年4月1日付けで医歯薬保健学研究科に「運動器超音波医学」共同研究講座を開設させていただきました。この講座はコニカミノルタジャパン株式会社との共同研究講座であり、超音波診断装置を用いて、企業の研究者と共に運動器疾患に関する研究を行い、優れた成果を生み出すことを目的としています。

9年前に外来の片隅に布がかけられたまま使われずに置いてあった装置に目が止まり、開けてみると超音波診断装置だった、というのが私と運動器超音波の出会いです。整形外科の画像診断といえば、従来単純X線検査、CT、MRIが代表的ですが、近年の装置や画像処理技術の進歩により、超音波診断装置は高い空間分解能を持ち、皮下組織の鮮明な描出が可能となりました。プローブをあてるだけで、皮膚の下にあるものが描出でき、しかも目の前で動いて見えることに感動し、運動器超音波にのめり込んでいきました。

筋肉、腱、靭帯、神経、血管、軟骨、骨表面など、運動器といわれる組織の形態や動きの評価が被曝することなく簡便に行えるため、疾患の診断はもちろん、経過観察や治療効果の判定にも繰り返し行なえます。見えなかったものが見えるようになることがあり、わかるようになることができるようになります。病態の把握から安全な治療まで、超音波検査を通して様々な発見をしていくことを目指し、支えてくださる皆様に感謝して今後もより一層尽力して参ります。

